

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州\_2014(v2.0)

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)DMCマンション新築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
------	------------------	-----	---	--------	----	-----

## 2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.2 /5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.1 /5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	2.3 /5		がんばろう
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう

※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満
-------	----------------	-----------------	-------------------

## 3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

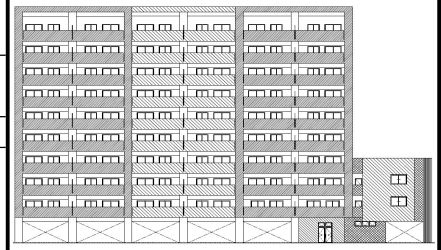
使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2016(v.3.0)
<b>1 循環型社会への貢献</b>		スコア平均 3.3	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.7	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.4 スコア 2.7
<自由記述>		<自由記述>	
<b>2 地球温暖化対策の推進</b>		スコア平均 3.1	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.2	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア 3
<自由記述>		<自由記述>	
<b>3 豊かな自然環境の確保</b>		スコア平均 2.3	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3 スコア 3
<自由記述>		<自由記述>	
<b>4 高齢社会への対応</b>		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	<b>主な指標</b> 建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級 <b>0.59, 等級3</b> 建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅: BEI値、住宅: - <b>0.82</b> 外構緑化指数 <b>1.98 %</b> 建物緑化指数 <b>0 %</b>	

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

## 評価結果

■ 評価用マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)DMCマンション新築工事	階数	地上10F
建設地	福岡県北九州市八幡西区陣原1丁目1	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	52人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所、集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年2月 予定	評価の実施日	2021年1月30日
敷地面積	1,706㎡	作成者	森崎 浩
建築面積	485㎡	確認日	2021年1月30日
延床面積	3,095㎡	確認者	森崎 浩



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

② 建築物の取組み 94%

③ 上記+②以外の 94%

④ 上記+ 94%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>全体のコンセプトとして『事務所と住宅の距離感のある融合』を目指した。各々の独立感の演出・主要設備の共有・一体としてのデザイン性の実現に取り組んだ。マンション部は単身者用としては床面積の豊かな間取りとし、立地上、想定される店子層のニーズに合ったものとした。周辺環境にも優しい施設となるよう、建物配置、日影範囲、街角の演出に配慮する計画とした。</p>	0
<p><b>Q1 室内環境</b> 開口部遮音性能T-2を採用した。 空気質環境に配慮して、F☆☆☆☆の積極的な採用と、自然換気性能を高める設計とした。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> 設備系統は、メンテナンス性を考慮した計画とした。</p>
<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内に緑地を極力設けることで、暑熱環境に配慮した。</p>	
<p><b>LR1 エネルギー</b> 建物外皮の熱負荷抑制に配慮し、カーテン、ブラインドを適宜設置することで遮熱性を高めた。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> 衛生器具は節水型器具を採用した。 非再生性資源の使用量削減に配慮して、躯体材料以外におけるリサイクル材を多用した。</p>
	<p><b>LR3 敷地外環境</b> 適切な数の駐車駐輪スペースを計画し、複数の出入口を設けることで周辺の交通負荷軽減に配慮した。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■ LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

CASBEE-建築(新築)2016年版  
(仮称)DMCマンション新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>							0.40	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.8</b>	0.15	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.8</b>
1.1 室内騒音レベル		寝室:40dB				<b>3.0</b>	0.49	<b>4.0</b>	0.50	
1.2 遮音						<b>4.9</b>	0.49	<b>3.6</b>	0.50	
1 開口部遮音性能		T-2				<b>5.0</b>	0.95	<b>5.0</b>	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	0.05	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						<b>1.0</b>	0.02	-	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>1.4</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.4</b>
2.1 室温制御						<b>1.8</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1 室温						1.0	0.59	3.0	0.63	
2 外皮性能						3.0	0.36	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.05	-	-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20	
2.3 空調方式						1.0	0.30	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.0</b>	0.25	<b>3.4</b>	1.00	<b>2.9</b>
3.1 昼光利用						<b>1.8</b>	0.30	<b>3.4</b>	0.30	
1 昼光率		オフィス:1.72% LDK:4.70%				1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口						-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						<b>1.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30	
1 昼光制御		住居部分:カーテン+庇				1.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.6</b>	0.25	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.7</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.59	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の積極的な採用				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						<b>3.0</b>	0.39	<b>3.6</b>	0.38	
1 換気量						3.0	0.48	3.0	0.33	
2 自然換気性能		オフィス:0.057≧(1/30) LDK:0.311≧(1/6)				4.0	0.04	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.48	3.0	0.33	
4.3 運用管理						<b>3.0</b>	0.02	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.4</b>	0.40	<b>2.8</b>	1.00	<b>2.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>2.9</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性						1.0	0.04	-	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.04	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画						3.0	0.92	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>1.1</b>	0.30	<b>2.5</b>	0.40	
1 広さ感・景観		住居部分:天井高2.55m				1.0	0.04	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース:5.7%				4.0	0.04	-	-	
3 内装計画						1.0	0.92	1.0	0.50	
1.3 維持管理						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.1</b>	0.30	-	-	<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上位3種にBを使用、Eは不使用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.9</b>	0.30	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.7</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>1.8</b>	0.04	<b>2.2</b>	0.50	
1 階高のゆとり			1.0	0.60	3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	1.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.04	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.93	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.4</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.3</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	BPI <sub>m</sub> =0.59		<b>3.2</b>	0.20	-	-	<b>3.2</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	BEI=0.92		<b>3.6</b>	0.50	-	-	<b>3.6</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	0.12	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	0.88	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.7</b>	0.60	-	-	<b>3.7</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュラン、マチュアNW、ロイヤルウッド		5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	軽量鉄骨下地、OAフロア		5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	LCCO2=94%		<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	適切な量の駐輪場、駐車スペース、出入口2箇所		4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策がドライ、広告物照明の扱いについて過半を満たす		5.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	